

日本医労連 2003年度 NO.1 2003.11.4

青年協ニュース

全国の取組みやチラシ・ニュース等をお寄せください！

日本医労連 FAX：03-3875-6270

ニュースやネタは... n-ootani@irouren.or.jp までお寄せください

*このニュースは各県と各県青年部の代表(分かる範囲で)に送っています。青年の会議で配るなど、多くの青年に渡るようご協力ください！

第27回青年代表者会議・イン・倉敷

10月25日(土)・26日(日) 第27回青年代表者会議が岡山県倉敷市にて開催され、全国から85名(5全国組合・32都道府県医労連)が参加しました。今回の青代はジャンボリーやケアマネ試験と重なったことで、参加したくてもできなかった人がいたそうです。参加できなかった方、ごめんなさい。今後は気をつけます！

また、議案の完成が遅れ、事前に皆さんのお手元にお届けできませんでした。大変申し訳ありませんでしたm(__)m。来年はこのようなことのないようにします...。「03年度議案書」と「資料集」を4~5部ずつ、各全国組合・都道府県医労連に送りますので、ご活用ください。

青代当日の日程は以下のとおりでした。

25日(土)

14:00 ...開会

...主催者挨拶(日本医労連青年協議会 浅山麻実事務局次長/全労災)

...日本医労連挨拶(日本医労連 田中千恵子執行委員長)

...歓迎挨拶(岡山県医労連 伊原潔執行委員長)

...来賓挨拶(全労連青年部 日下努部長)

...議案提案(大谷千秋事務局長/日本医労連、三村真理子議長/全日赤)

...グループ討論(6班に分かれました)

18:30 ...夕食交流会(司会:植田英則委員/北海道、五十嵐誠治委員/山形)

26日(日)

09:00...全体討論

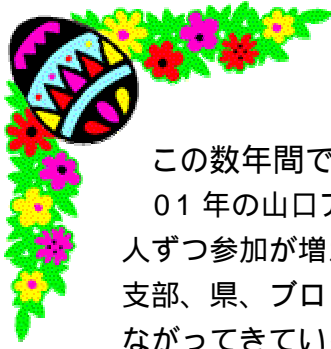
11:30...まとめと承認

11:45...新旧青年委員挨拶

11:55...閉会挨拶(奥本竜夫新副議長/大阪)

12:00...閉会





ダイジェスト版 総括と方針

この数年間で点在していた青年の活動が線に・・・

01年の山口アクト前から、青年協の企画（5月の学習交流集会と秋の青代）に約10人ずつ参加が増えており、今年の全国アクト参加者数も前回山口を上回りました。単組・支部、県、ブロックを越えた交流も進み、それぞれバラバラに活動していた青年部がつながってきている、またそれが全国規模での活動ともつながり、線になってきている、そのあらわれといえます。

存在感のある青年部を意識しつつ、青年の要求に応えて前進できた一年

「目に見える、存在感のある青年部」についてはだいぶ定着し、意識されている。特に全国アクトのために財政活動や宣伝・オルグが積極的に取り組まれました。

青年の一番大きい要求のひとつ「遊ぶ＝交流」に応え、ほとんどの青年部・委員会、青年部結成準備会で遊び企画が取り組まれました、すでに活動している青年組織はもとより、新しく動き始めた青年組織も足腰がしっかりしてくると学習企画に取り組み始めています（このことから「学ぶ」ことも青年の要求のひとつといえる）

「たたかう」については、徳島県医労連の再建準備会が「青年要求アンケート」に取り組んだ他、青年独自の取り組みはありませんでした。たたかうとは、権利などを知り（＝学習）要求を練り上げ、実現させる方法を検討し実行すること。大変なことだけど信頼できる仲間とならできるし、その仲間づくりのために「交流」が必要です。青年委員会でも「たたかう」をどうやって提起していくのか、考えていきます。

平和の取組みが定着

また、平和の面においても多くの青年が行動しました。単組・支部、県、全国の各段階で、宣伝行動やニュースの発行、署名活動、平和の行動や集会への結集と、積極的に取り組みました。国内外をめぐる平和の情勢が緊迫しているとはいえ、青年に平和の取組みが定着してきています。

03年度の方針は...

基本方向として、昨年に続いて「目に見える、存在感のある青年部」になることを意識しながら、「遊ぶ、学ぶ、たたかう」ことを通じて仲間を増やし、ともに成長し、青年部・委員会活動の活発化を目指そう。青年の要求に応える活動を展開し、「点」からつながってきた「線」を、もっと密にして、蜘蛛の巣状態の「面」にしていこう。

昨年度に引き続き「青年部とは何なのか？」「どんな役割を果たすものなのか？」を忘れずに、私たちの要求を実現するために、次の4点を重点に、たくさんの仲間と活動していこう。

青年部・委員会活動の活性化をめざそう
遊んで、学んで、たたかおう
平和のために行動しよう
全労連・県労連への結集をはじめ、広範な青年と共同しよう



* 青代特集号は次号も続きます